

2024年3月期 第2四半期 決算説明資料

2023年11月13日

広島電鉄株式会社 (証券コード: 9033)

2024年3月期第2四半期 連結経営成績

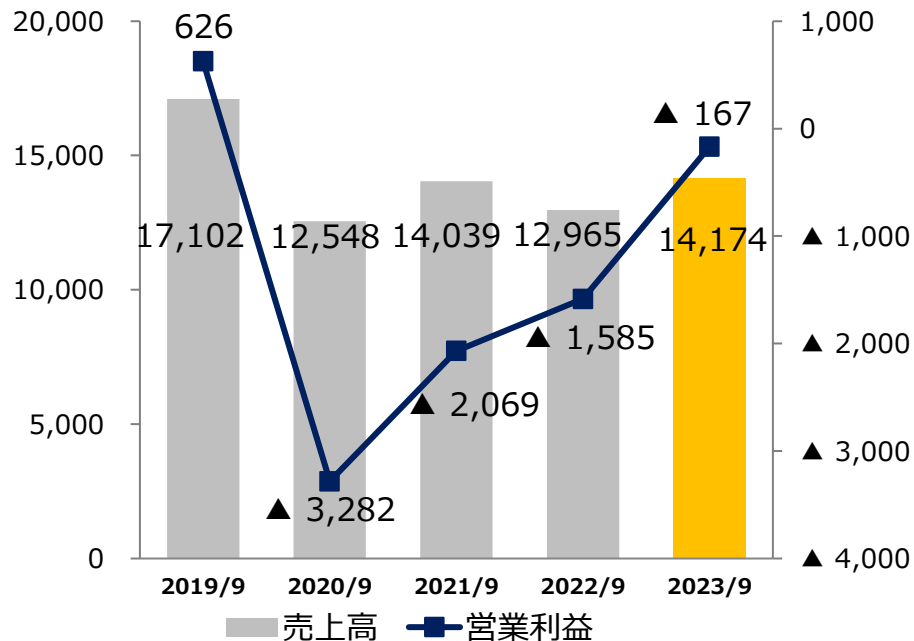
(百万円)

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	増減 (%)	主な増減要因
売上高	12,965	14,174	+1,208 (+9.3)	アフターコロナでの日々の移動機会の増加や、G7 広島サミット開催に伴う国内外からの観光客の来 広に加え、継続してきたまちづくりへの投資や様々な 取り組みへの参画に伴う移動需要を取り込んだ結果、 運輸業・流通業において好調に推移し、増収
営業利益	△1,585	△ 167	+1,417 (-)	
経常利益	△1,493	△ 149	+1,344 (-)	営業利益、経常利益ともに赤字幅の縮小
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△42	234	+277 (-)	特別利益では前年度からの反動減や「新型コロナ ウイルス感染症に係る助成金」の減少があったもの の、営業収益の改善が寄与したことにより、最終利 益を計上
1株当たり 四半期純利益	△1.41円	7.71円	+9.12円	

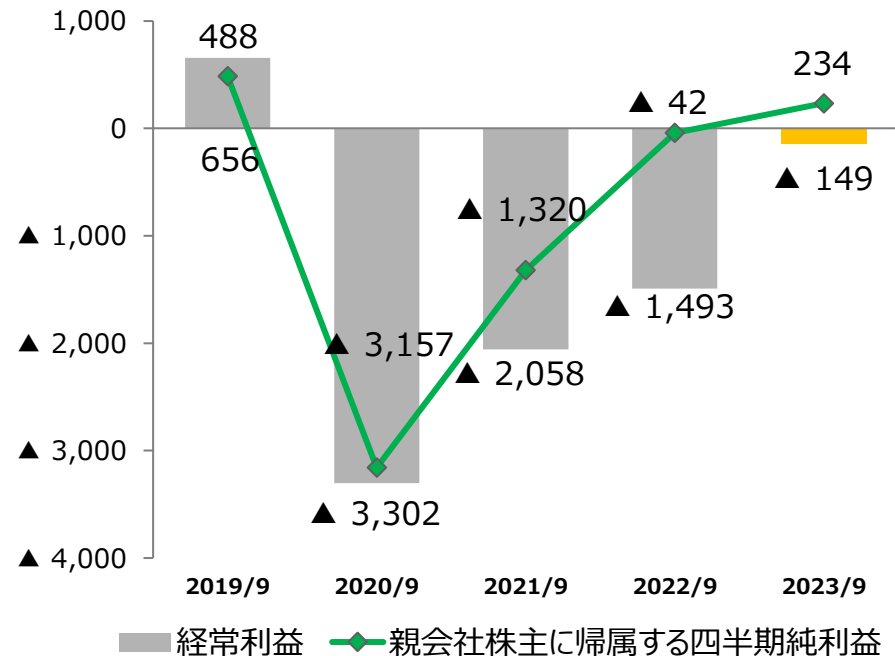
連結業績の推移 (第2四半期)

(百万円)

売上高・営業利益



経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益



連結貸借対照表(B/S)

(百万円)

		2023年3月期	2024年3月期 第2四半期	増減	主な増減要因
流	動 資 産	16,451	10,657	△5,793	受取手形、売掛金及び契約資産△3,219 その他△3,014 販売土地及び建物+757
固	定 資 産	77,655	79,097	+1,442	投資有価証券+1,348 有形固定資産+162
資 産 合 計		94,106	89,755	△4,351	
負	流 動 負 債	25,723	20,701	△5,022	未払金△3,691 短期借入金△1,595
	固 定 負 債	29,162	28,861	△300	長期借入金△706 その他+463
	負 債 合 計	54,886	49,563	△5,323	
純	株 主 資 本	14,990	15,049	+59	利益剰余金の増加
	その他の包括利益累計額	23,369	24,262	+892	その他有価証券評価差額金+939
	非支配株主持分	860	880	+19	
純 資 産 合 計		39,220	40,191	+971	
負 債 純 資 産 合 計		94,106	89,755	△4,351	

連結損益計算書 (P/L)

(百万円)

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	増減	主な増減要因
営業収益	12,965	14,174	+1,208	
運輸業等営業費及び売上原価	11,869	11,446	△423	
販売費及び一般管理費	2,680	2,894	+214	
営業損失(△)	△1,585	△167	+1,417	
営業外収益	205	144	△60	受取配当金△20 持分法による投資利益△21
営業外費用	113	127	+13	
経常損失(△)	△1,493	△149	+1,344	
特別利益	1,729	506	△1,223	固定資産売却益△540 退職給付信託返還益△483 新型コロナウイルス感染症に係る助成金△311
特別損失	183	48	△135	固定資産除却損△75 固定資産圧縮損△55
税金等調整前四半期純利益	52	308	+255	
法人税・住民税及び事業税	21	47	+25	
法人税等調整額	139	2	△137	退職給付信託返還にかかる繰延税金負債計上△129
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△109	258	+367	
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△66	24	+90	
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△42	234	+277	

連結キャッシュ・フロー(C/F)

(百万円)

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	増減	主な増減要因
営業活動によるキャッシュ・フロー	△68	3,827	+3,896	建設業における売上債権の回収や、広島駅南口広場の再整備受託工事の未収金の回収が影響
投資活動によるキャッシュ・フロー	△486	△1,581	△1,095	前期には広電三井住友海上ビルの自社所有分売却などによる資金収入があったが、当期は設備投資に係る支出が増加したことが影響
財務活動によるキャッシュ・フロー	△681	△2,623	△1,942	有利子負債の削減が影響
現金及び現金同等物の増減額	△1,236	△377	+858	
現金及び現金同等物の期首残高	5,194	4,387	△806	
現金及び現金同等物の期末残高	3,958	4,009	+51	

セグメント別経営成績①運輸業

(百万円)

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	増減 (%)	主な増減要因
セグメント収益	8,427	9,925	+1,497 (+17.8)	鉄軌道事業及び自動車事業では、社会経済活動の回復と共に利用者が増加傾向にある中、ダイヤ改正による利便性向上や、一部電車連接車両のワンマン運行を開始することで運行の効率化を図った。また、2022年11月に実施した広島市内中心部デルタ内の路面電車、路線バス運賃を均一とするわかりやすい運賃体系の整備等の利便性向上策も寄与し、増収
セグメント利益	△2,052	△ 754	+1,297 (-)	
運行補助金	209	442	+232 (+111.1)	海上運送業および索道業では、旅行需要の高まりだけでなく、G7広島サミットに伴い宮島への注目度が高まったことから、宮島来島者が国内外問わず大幅に増加し、増収
運行補助金を 含めた損益	△1,843	△ 312	+1,531 (-)	航空運送代理業では、社会経済活動が回復する中で国内線は当初運航予定便の就航率も高まり、増収

セグメント別経営成績②流通業

(百万円)

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	増減 (%)	主な増減要因
セグメント収益	481	567	+86 (+18.0)	山陽自動車道の宮島サービスエリアにおいて、原材料高騰に伴う価格改定を実施したことや、レジャー客の動きが活発化したことにより、増収増益
セグメント利益	△0	18	+19 (-)	

セグメント別経営成績③不動産業

(百万円)

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	増減 (%)	主な増減要因
セグメント収益	1,649	1,683	+33 (+2.1)	不動産賃貸業において、「ファミリータウン広電楽々園ダイキ棟」の賃貸契約終了や、2022年5月に「広電三井住友海上ビル」の自社所有分を売却した影響により、減収 不動産販売業において、「西風新都グリーンフォートそらの」の住宅用地の分譲販売を行ったことにより、増収増益
セグメント利益	395	439	+44 (+11.2)	

セグメント別経営成績④建設業

(百万円)

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	増減 (%)	主な増減要因
セグメント収益	2,533	2,002	△530 (△20.9)	広島駅前大橋ルート整備事業等の進行があったものの、前年度に広島市大塚中央土地区画整理事業の工事が進行した反動等により、減収
セグメント利益	31	67	+36 (+117.8)	

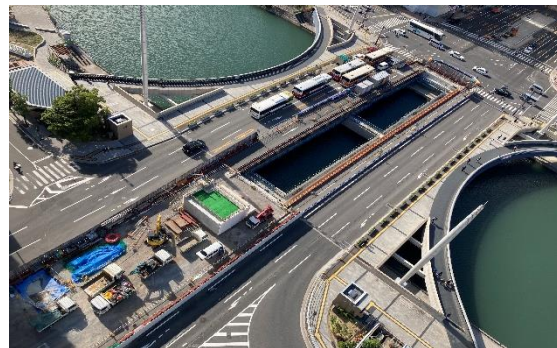
セグメント別経営成績⑤レジャー・サービス業

(百万円)

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	増減 (%)	主な増減要因
セグメント収益	460	451	△9 (△2.1)	ゴルフ業では、コロナ禍において密を避けるレジャーとして幅広い層に人気を集めていたものの、直近ではレジャーの多様化等により利用者数が減少
セグメント利益	43	21	△21 (△50.5)	ボウリング業では、教室や大会を企画する等、来場者の増加に努めるとともに、2023年1月に実施した料金改定が寄与したが、全体としては若干の減収

2023年度の主な設備投資予定（連結）

	導入数	金額
広島駅前大橋ルート整備事業		1,472百万円
新乗車券システム（MOBIRY DAYS）		1,316百万円
自動車事業用車両購入	29両	884百万円
5200形グリーンムーバー-APEX	1編成	520百万円
連接車両ワンマン化工事	22編成	365百万円



▲広島駅前大橋ルート整備事業（2023年10月現在）



▲新乗車券システム（MOBIRY DAYS）

2024年3月期 連結通期業績予想

(百万円)

	2023年 3月期実績	今回予想	増減 (%)	主な増減要因
売上高	27,450	30,850	+3,399 (+12.4)	主力の運輸業について、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類5類引き下げや、「G7広島サミット2023」を契機とした国内外からの観光需要の増加など、移動需要の回復傾向が当初の予定を上回って推移し、3Q以降も比較的好調を維持していくものと想定しており、前期に比べ大幅な増収を見込む
営業利益	△3,212	△ 930	+2,282 (-)	
経常利益	△3,027	△ 940	+2,087 (-)	運輸業における増収のほか、不動産業においては年度末に分譲マンション「ザ・タワーレジデンス広島富士見町」の全76戸引渡しを見込んでおり、営業損益、経常損益ともに赤字幅は大きく減少することを想定する。特別損益は前期の特別利益の反動により大きく減少するものの、2期連続の黒字決算を見込む
親会社株主に帰属する 当期純利益	943	940	△3 (△0.3)	

連結業績予想の前提条件

【収入の見通し(セグメント別)】

セグメント	収 対	前 年	入 比	備 考
運 輸 業		+11%		新型コロナウイルス感染症の5類感染症への変更や、G7広島サミット2023を契機とした国内外からの観光需要の増加などの移動需要の回復傾向により、3Q以降も比較的好調を維持すると想定
流 通 業		+17%		人流の回復傾向により、宮島SAの売上増を想定
不 動 産 業		+49%		分譲マンション「ザ・タワーレジデンス広島富士見町」の販売収入による大幅な増収を想定
建 設 業		△9%		広島駅前大橋ルート整備事業等の増収要因はあるが、資材高の高騰や前年の広島市大塚中央土地区画整理事業の反動等により減収を想定
レジャー・サービス業		△1%		ゴルフ業では、コロナ禍において密を避けるレジャーとして幅広い層に人気を集めていたものの、直近ではレジャーの多様化等に伴う利用者数の減少を想定

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

【問い合わせ先】

広島電鉄株式会社

経営管理本部 経理部 経理課

TEL 082-242-3542